

BrightEyes 瞳を輝かせて

輝

「サバンナ」のありのままの姿を写したい 個展「サバンナに生きる」を好評開催

宮嶋 英一さん（三好上）

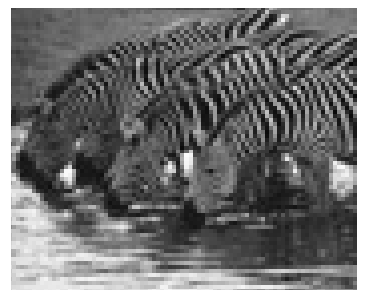
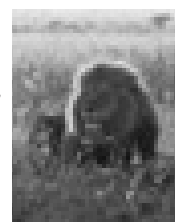
果 てしなく続く草原、力強く生きる動物たち。アフリカに広がる草原「サバンナ」には、自然そのものが残されています。今回はサバンナに魅せられ、その自然を撮り続けているアマチュア写真家、宮嶋英一さんを紹介します。

宮嶋さんが初めてサバンナを訪れたのは平成9年の夏。学生のころ、ヘミングウェイ原作の映画「キリマンジエロの雪」で見たサバンナの美しい光景が忘れられず、「一度でいいからサバンナに行ってみよう」と思い続けていた宮嶋さんの念願がなつての訪問でした。「サバンナの大自然を目の前で見ることができた。あの感動は今でも忘れられません」と目を細めて話します。それから間もない同年冬、宮嶋さんは再度サバンナを訪れました。「あの素晴らしい自然を、この手でじっくり撮っ



▶▶▶プロフィール

みやじま・ひでかず 昭和11年生まれ67歳。愛知学芸大学（現愛知教育大学）を卒業後、愛知県および名古屋市の公立学校や名古屋市教育委員会指導室の職場を歴任し、現在は名古屋柳城短期大学に勤務。「東アフリカ友の会」（通称：サバンナクラブ）に所属。趣味は16世紀初頭の帆船の模型づくりやゴルフなど。



てみたいと思っ
たんです。夏は
自分の時間をしっ
かり作れませ
んでした。それで
いてもたっても
いられなくて」
と当時を振り返
ります。
ちょうど同じころ、東アフリカの自然を愛し現
地へ支援・協力活動が続けるサバンナクラブに入
会した宮嶋さんは、その後サバンナクラブの会員
として、写真家仲間同士で、ときには個人で、幾
度となくアフリカを訪問。サバンナの写真を撮影
してきました。撮影では、一日中食事をとらずに
待機したことや、車を象にとり囲まれてしまった
こともありました。

今年8月、宮嶋さんは2万枚以上にも及ぶ写真
の中から7点を選び、名古屋市中区のセントラル
ギャラリーで個展を開催しました。ライオンやヒョ
ウ、チーターなど、サバンナで生きる動物たちの
姿を写した数々の作品は、どれも自然の厳しさ、
力強さ、そして優しさがあふれるものばかり。
「親子や家族を思いやり、穏やかな表情を浮かべ
る動物たちには、常に『飢え』や『狙われる』と
いったおそれ、つまり『死』が隣り合わせにあり
ます。だからこそ動物たちは、限りある命を精いっ
ぱい生きています。サバンナの自然は命そのもの。
これからも、サバンナのありのままの姿を撮り続
けていきたいですね」と瞳を輝かせます。
「サバンナでは、すべての瞬間が生であり死な
んです」と話す宮嶋さん。これからもサバンナに
生きる「命」の輝きを写してくださいね。

みつけたみよしの はつらつさん

健康には運動と笑顔が何より大切

原田 岩男さん（三好下）

「ゲートボールほど面白いゲームはないですね」と笑顔で話
す原田岩男さん。月曜日を除く毎朝、ゲートボールとグラウン
ドゴルフの練習を交互に続ける、三好下ゲートボールチームの
リーダー的存在です。ゲートボールは5人が一組になって点数
を競い合う、チーム対抗のゲーム。そのため何よりもチームワ
ークが大切だと原田さんは言います。「個人競技のグラウンドゴ
ルフに比べ、ゲートボールはチーム全員の協力、そして作戦が
決め手になるゲームです。5人が協力し合うことは難しいです
が、その分勝ったときの達成感は大きいですよ」。

若いときから大きなけがや病気など一つもしたことがない原
田さん。その健康の秘けつは、仲間とともに楽しく運動するこ
とだと言います。「皆さんと一緒に運動すると、自然に笑顔が
こぼれます。これが何よりの健康の秘けつですね」とこぼり。
これからは仲間の皆さんとともに、「元氣いっぱい楽しく練習
に励んでくださいね」。



▶▶▶プロフィール

はらだ・いわお 昭和5年生まれ73歳。趣味はゴルフやゲートボール、グラウンドゴルフなど体を動かすこと。現在はスポーツ中心の毎日だが、今後は書道や囲碁、俳句などにも挑戦したいと意欲的。

がんばれ！ みよしっ子

三好中学校 野球部

三好中学校の野球部を紹介します。顧問の足立慎吾先生とキャプテンの小嶋啓介君に話を伺いました。



7月に3年生が引退し、新チームとなつて約3カ月。キャッチボールやバントといった基礎に、ノックなどの応用技術が加えられ、いよいよ本格的な練習が始まった野球部では、練習中に部員たちの声が絶えることはありません。「僕たちは一つひとつのプレーに全員で声を掛け合うことで、互いの気持ちを高め、練習に励んでいます」と小嶋君は話します。

野球部のモットーは「声をしっかりと出し、常に目的意識を持って練習に臨むこと」。足立先生の指導の下、最初は小さかった部員たちの声は次第に大きくなり、動きも機敏になってきました。「自分の行動一つひとつに目的意識を持つことは、野球に限らず大切なことです。それを部活を通して、部員たちに伝えることができれば」と先生の指導にも力が入ります。

小嶋君は「これからは来年度に行われる東西加茂大会で優勝し、西三河大会へ出場することを目標に、部員一丸となって練習に励んでいきたいと思えます」と力強く抱負を語っていました。

